

こがねい

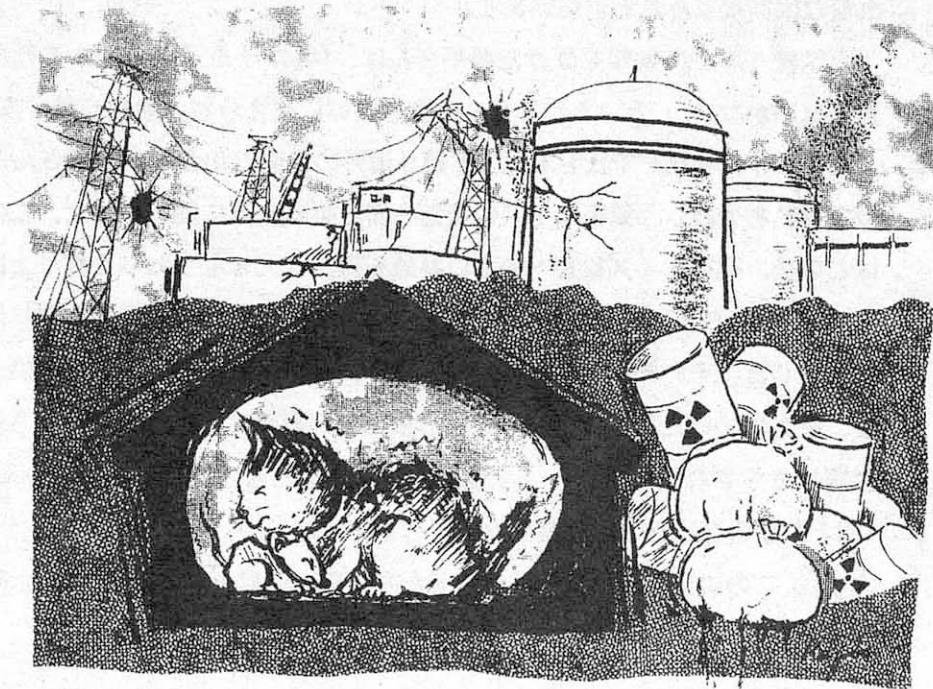
2002.5.

第9号

# 放射能測定室だより

発行：川金井市放射能測定器運営連絡協議会  
連絡先：川金井市 緑町 5-19-14-605  
(事務局) Tel.Fax 042-385-6650 (江藤)

昨年秋の米国における惨事、それに続く暴力の連鎖、そしてこうしている今も繰り返されるパレスチナでの惨状。人の命がこの地球上でどれだけ軽く扱われ続けているか、残念ながらこの一年も思い知らされるばかりでした。今と未来の「いのち」を大切に守っていきたい、と私達は願っています。今年度もどうかよろしくお願い致します。



## “いのちを守りつづけて”

2002. 2. 23

協議会11周年記念講演会  
—川田悦子さんの講演を聞いて—



ご息の龍平さんとともに薬害エイズ訴訟を闘い、現在は衆議院議員として活躍しておられる川田悦子さんのお話を聞く会を開催することが出来、今でもその幸運に胸が熱くなります。いつか直接お話を聞けたら…。川田さんについてはそう思い続けてきました。

生後6ヶ月で次男である龍平さんが血友病であると分かり、血液製剤の投与を始めた川田さん親子は、医師のすすめで米国より輸入された非加熱濃縮製剤に変換、その結果、HIVに感染させられ、その後の長い闘いが始まります。川田さんが辿った裁判に加わるまでの道のりや訴訟を担ってきた日々のお話、「エイズ予防法」に反対する運動を展開された際のお話、どのようにして「薬害エイズ」が作られていったか等、お聞きしたいことばかりでしたが、とりわけ心を打たれたのは龍平さんご本人にHIV感染を告知した日のお話でした。嘘をついていたのでは治療はできない、との考えからだったとおっしゃっていましたが、大変な決断だったことと思います。

小学校5年生で告知を受けた龍平さんは、「我が子を子どものまま死なせる訳にはいかない。」という悦子さんの強い思いに支えられ、治療を続けます。

「国際エイズ会議」で氏名を隠さず闘う海外の患者と出会った龍平さんは、19歳で実名を公表し、薬害エイズの責任を国と製薬会社に問いました。この闘いはこの後、薬害エイズ被害への広い共感を得て、大きなうねりを作り上げていきます。'96年に和解が成立しますが、「謝罪」の場面は日本中から熱い注目を集めました。その年の厚生省前の座り込みには1万人もの人々が参加し、その後、隠されていた事実が明るみになる度にこの事件は当然のことながら厳しい世論にさらされます。—「2度とこのようなことが起こってはならない。」「国と製薬会社はきちんと責任を取るべきではないか。」— 支援に駆けつけた人々は、この叫びを世に問うべき自分たち自身の問題として行動したはずで

500人以上もの若い命を奪った薬害エイズをめぐる訴訟は悦子さんの捉えた通り、“人間の尊厳を取り戻す”闘いそのものであったと言えるでしょう。

現在、国会議員となった川田さんは、議員としてさまざまな問題に立ち向かっておられます。

—狂牛病についても根は薬害エイズを引き起こした構造と同じなのではないか？ 国や行政の無責任が被害を拡大し、弱い者にしわ寄せをしていくという同じ過ちの繰り返しではないのか？ 企業の中で不正な事が行われている場合、内部からそれを告発した人が不利な立場に追い込まれないよう、『内部告発者保護法』といった法律を作っていく必要があるのではないか？—

利潤追求のために人の命や健康、人権がないがしろにされる今の社会を変えていく活動を、川田さんはこれからも続けていかれることでしょう。

大変お忙しい中を、時間を割いておいで下さった川田さん、ご協力いただいた各団体の方々、参加して下さいました皆さんに厚くお礼を申し上げたいと思います。

## コージェネレーションシステム関係の 学習および活動報告

以前よりコージェネレーションシステムには注目していましたが、協議会の活動として、昨年、東京ガスの方をお呼びしての学習会を2度行いました。また、その際、当協議会の会員でもある女性市議員の方々も参加して頂きました。

コージェネレーションシステムが温水を大量に使用する場所に設置すると合理的であるということから、小金井市立体育館にも出向いて担当の方と話し合いの場を持ち、東京ガスの方にもシステムを設置した場合の費用の概算を出して頂き、今後体育館の補修等の時期には、小金井市に提案して頂ける事になりました。

また、昨年東京ガスの方からコージェネレーションシステムや燃料電池等、その他ガス関係の展示説明会への招待を頂き、3名が代表して現物を見たりして学習して来ました。

コージェネレーションシステムは大きな建物等に向いているので、今後は燃料電池に着目してさらに学習等をして行こうと考えています。



## ポルチーニ輸入業者への手紙

みなさんも新聞記事などでご存知のようにイタリア産のポルチーニには今なお国の規制値を超える放射能が発見され、水際で送り返される事があります。

いつまでもその身に放射能を宿すポルチーニ。いったいどんな因果でこのようなことになるのか、イタリアの地に飛んでいって見てきたい思いにかられます。輸入業者はこの現実をどれだけ把握しているのだろうか。市販のものの値が気になって私達はずっと測定し続けています。その中でも私達にとっては高濃度と思われる値(国の規制値以下ではあっても)を示した検体の輸入業者である二つの会社到手紙を出してみることにしました。測定結果も同封しておきました。

ここにその手紙を、それに対する返事とともにご紹介します。なお二つのうち一社からは返事をいただけませんでした。また、お返事を下さった会社に再度お手紙にて様々な質問をさせていただいたのですが、それに対してはお返事をいただけませんでした。

---

\*\*\*物産(株) 様

拝啓

貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、私ども「小金井市に放射能測定室を作った会」は、1986年4月に起きたチェルノブイリ原子力発電所の事故の影響で、日本に輸入されている食品にも放射能が検出されたことから、小金井市に食品の放射能測定器を購入してもらい、1990年「小金井市放射能測定器運営連絡協議会」を設立。小金井市を初め、他団体、個人会員との協力体制の下、食品に含まれる放射能(セシウム134・137)を測定し続けております。

現地、チェルノブイリ周辺ではまだまだ悲惨な状態が続いており、心を痛めるものでありますが、すでに15年が事故から経過しておりますことから、日本ではそれほど心配するような検出結果はでておりません。しかし、現在最も憂慮すべき食品として、イタリア産ポルチーニが上げられます。

私達は、1998年1月に新聞紙上で乾燥ポルチーニから基準値以上のセシウムが検出されたという事実が発表されて以来、継続してポルチーニを測定(12検体)してまいりましたが、3年を経た現在もなお、いっこうにセシウムの値が下がるきざしもなく、心配しております。

別紙に7月測定したばかりの結果(4検体分・内2検体が貴社販売のものです)を同封いたしますのでご覧いただければ幸いに存じます。測定方法は、ヨウ化ナトリウムを使った検出器を使用し、6時間測定したものです。

ご存知の通り、国の基準は367ベクレルであり、そこから比べれば別紙の結果は基準以下ではありますが、私達は食品に人工的な放射能が含まれる事自体、あってはならないことと考えております。ご参考までに、生活クラブ生協では、独自の基準を持ち、食品に含まれる放射能として

は37ベクレルまでとしていると聞いております。

お忙しい中、大変恐縮ではございますが、別紙の測定結果をご覧いただいた上での御社のお考えを伺いたく、お返事をいただければありがたく存じます。

どうぞよろしく願いたします。

敬具

2001年9月

小金井市に放射能測定器を作った会

伏屋 弓子

伏屋 弓子 様

拝啓

お手紙をありがとうございます。ご指摘の点につきましては、弊社も承知しております。

基準値はそれなりの理由があつてのことと思いますが、国の基準と貴女の所属する生活クラブとでは10倍も違うのはどういうことでしょうか。もちろんのことですが、弊社は国の基準に沿って仕事をしています。日本に限らず、各国では自国の農業を守る為に、輸入食品排除のさまざまな防衛策を打ち出しています。食品検査基準などもそのひとつです。高い検査費用を出して、輸入のたびに検査をしています。また米や肉などは高額な関税を掛け、輸入しにくくなっています。

国産の食品は流通のたびに食品の検査があるのでしょうか？

また国産には許される防腐剤が輸入品には許されないのはなぜでしょうか？  
輸入のキノコは検査をして、国産のキノコは検査をしないのはなぜでしょうか？  
チェルノブイリの直後、日本国内でも放射能は問題になった筈です。  
添付頂いたデータの「試料量」を見ますと、弊社が販売しているものは20g袋と200g袋です。4つの検体はそのどれにも当てはまらないのですが？

なお、イタリアから輸入されているポルチャーニの原料は全てイタリア国内産とは限りませんのでご注意下さい。

今後とも気がつかれたことがありましたら、ご指摘下さいますようお願い申し上げます。

敬具

平成13年9月5日

## 高木学校との交流会

「高木学校」をご存知ですか？

故高木仁三郎さんが、1997年ライト・ライブリフト賞を受賞されたのを機に、その賞金を基に創設された、校舎のない「学校」です。高木さんは校長となって、この「学校」に情熱を注がれましたが、惜しくも2000年秋に癌のために亡くなりました。現在、高木さんの思いを受け継ぎ、活動を続けている「高木学校」をご紹介します。

☆高木学校は「環境、核、人権などの問題に、市民と同じ立場から取り組むことができ、市民活動と連携して研究、活動ができる科学者」の養成を目的としています。

\* オルターナティブ(これまでとは別の枠組みの)な科学者

あわせて、そのような科学の在り方を提言する場、実際に仕事をするNGOを創ることを目指しています。

☆現在3つのコースに分かれて活動が行われています。

Aコース・・・ オルターナティブな科学者を目指す人々が対象。現在、様々な専門分野の50人くらいの人が、テーマ別のグループを作って調査、研究、発表など活動しています。

Bコース・・・ Aコースのメンバーが中心になって、科学技術関連の社会問題に関して、手作りの連続講座を提供するコース。こちらは講座ごとに、誰もが参加できます。Aコースメンバーと市民とが交流、意見交換をする場でもあります。「化学物質と生活」「エネルギーと生活」「リサイクル」「これからの原子力問題」などのテーマで4回の講座を開催してきました。

Cコース・・・ 小学生から高校生を対象にした講座。高木さんが病床で大変心に懸けられていたもので、野外活動、実験など環境教育を通して、「高木学校」の志を伝えています。

ほか資金面から「学校」を援助する「サポートの会」もあります。

協議会では、今年3月17日に上之原会館で「高木学校」のメンバーの方3人と交流会を行いました。最初の試みでもあり、測定室を見ていただいたり、活動の紹介をしているうちに時間がたってしまったのですが、これからも様々な形で交流を続けて行きたいと思います。

「高木学校」について詳しいことをお知りになりたいときは

TEL 03-5332-3227(原子力資料情報室内)

HP <http://www.jca.apc.org/takasas/>(高木学校)

までどうぞ



## 【2001年度 測定結果一覧表】

(2001年4月～2002年3月)

測定品目	件数	原産国	測定結果
乳製品 (牛乳、ヨーグルト)	3	日本	放射能は検出されませんでした
きのこ キクラゲ	3	中国	//
茸狩のおみやげ	1	日本	//
干しボルチー二茸	1	イタリア	73.08 <sup>μ</sup> クル/kg
干しボルチー二茸	1	//	55.23 <sup>μ</sup> クル/kg
干しボルチー二茸	1	//	40.44 <sup>μ</sup> クル/kg
干しボルチー二茸	1	//	90.82 <sup>μ</sup> クル/kg
干しボルチー二茸	1	不明	放射能は検出されませんでした
ミネラルウォーター、水道水	3	フランス、日本	//
黒砂糖	1	沖縄	//
塩	2	フランス、日本	//
カレー粉	1	不明	//
カツオ節	1	日本	//
トマト製品			
ケチャップ、ピューレ、ジュース	3	不明	//
マカロニ	1	アメリカ	//
ワイン	1	フランス	//
すりごま	1	不明	//
オリーブ	2	不明	//
コーン缶詰	1	アメリカ	//
お茶類			
日本茶、マテ茶、ウーロン茶	5	日本、不明	//
岩のり、糸昆布	3	日本	//
ゼンマイ	1	//	//
ジュース (リンゴ、ブドウ)	2	//	//
1986年産ローリエ	1	トルコ	387.54 <sup>μ</sup> クル/kg

計 41 件

\*以上の他に保育園、学校給食材29件を測定し、いずれからも放射能は検出されませんでした。

\*9月、10月と測定器に不具合がおきて測定を休止したため、前年より4件程度少なくなっています。

☆セシウムはチェルノブイリ事故により大量に放出された放射能です。

過去の核実験により地表に蓄積されている放射能でもあります。分解されるのに時間がかかるので (半分の量になるのに約30年) いったん環境に出てしまうと長く残ります。

☆ヨウ化ナトリウム検出器にて6時間測定しました。

★イタリア産ボルチー二茸から基準値 (370<sup>μ</sup> クル/kg) 以下ではありますが、引き続きセシウムが検出されているので、測定を継続していきます。

# ▶ 測定依頼をお寄せください!!

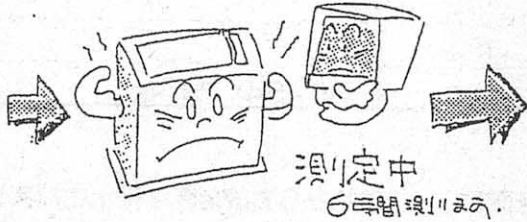
申し込み方法等は でお知らせいたします。

なお、実際に測定にかかわりたい方、  
 町に協議会に参加したい方、いつでも募集して  
 いますのでご連絡ください。大歓迎です。

お願いします!

## はかってほしい時は

- ① 市役所経済課に問い合わせの  
 申込みをください。  
 042-387-9831  
 (経済課)
- ② 測定日の指定が  
 あります。  
 OAOB  
 にあて  
 ください
- ③ 指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を  
 市庁舎 にご持参し、協賛会測定室に  
 お持ちください。(※検体は細かくくだいておくこと)
- ④ 検体  
 について  
 検体票に  
 検体名を記入
- ⑤ 夕方、検体を引き取りに来てください。  
 測定結果を記入した通知書をお返しす  
 ください



※ 370ベクレル  
 以上が検出された場合は別途、  
 測定結果を通知いたしますので、ご持参  
 いただいた検体は、返却できません

★ 200ccの容量が必須です。  
 (スリムタイプは150cc以上)  
 (缶詰タイプは210cc以上)など  
 ※ 検体によって容量が異なるため、  
 市協賛会にご相談ください。

★ 食品に限ります。

★ 無料です。

